

沖縄大学

英単語力増強対策から入学前指導、そして初年次教育改革へ

：沖縄大学における PowerWords コース プラス、モバイルアカデミーの利用報告

伊藤 丈志

2008 年 2 月執筆

基礎的な英語力を欠いている学生を指導する上で常に問題となるのが、どのようにして語彙力を向上させるかという点である。4 技能のどの領域を指導するにしても、学生が有している語彙力があまりに乏しく、指導が思うように進まないという現実がある。例えばリスニング指導の際、音声に登場する単語をそもそも知らないで、いかに聞き取るかというレベルに達していない。最初は各教員の努力で単語クイズなどを行っていたが、教員も学生も次第に負担を感じるようになり、どれも定着させるまでには至らなかった。

そんな中出会ったのが『PowerWords コースプラス』であった。この学習プログラムの特筆すべき点は、その「しつこさ」である。ある単語問題で誤答するとしばらくして同じ問題が提示される。続けて間違えると「ブラックリスト」に掲載され、数問正答を続けないとそこから抜け出すことができないようになっている。こうした「しつこさ」は語学には絶対に必要で、能力の高い学生は自ら工夫をしながら同じようなことをやっているものであるが、基礎力に問題のある学生には外部からこうした刺激を与えるのが大変効果的である。教員の側で同様のアプローチを行うのは、大変な努力を必要とする。

教員はクラス管理者として課題を出すだけで、後は学習状況をモニターすればよく、大変負担が軽いというのが大きな利点である。2006 年夏休みに導入したこのプログラムを専任教員が担当するクラスで半年間試用した後、次年度からは学外からのアクセスも可能にし、非常勤教員担当まで含めた全ての英語コースのクラス：「Basic English (12 クラス)」に、単位取得のための最低学習要件として導入した。(以下課題は事例の 1 つ)

1) 1 週間最低 30 分間学習すること (1 日約 5 分間の学習に相当)

2) 「レベル診断テスト」結果に基づき、1 レベル (1000 語/50 ユニット) を修了すること

その結果、2007 年度筆者が担当する 1 年次のクラス (17 名) では、わずか半年で十分な効果が現れてくることがわかった。

* 入学時 (4 月) 「レベル診断テスト」：レベル 2 が 1 名、残る 16 名はレベル 1。

* 半年後 (10 月) 「」：レベル 2 が 6 名に増加、1 名がレベル 3 に達した。

一方学内では、AO・推薦入試合格者に対する入学前指導実施の検討が行われていた。入学前指導は数年前から実施していたが、課題図書を指定してレポートを書かせても、到底読んでいるとは思えない内容であったり、新聞の切り抜きを中心とした課題を与えても、学習期間が集中していて定期的な学習になっていなかったりといった問題が指摘されていた。そこで白羽の矢が立ったのが、ALC NetAcademy2 (以下 NA2) であった。学力不足と見なされがちな AO・推薦入試合格者にいち早く本学のプログラムを体験させることで、入学時までには他入試合格者よりも高いスタート地点に立たせる事が可能ではないかと考えた。例えば、9 月に入学手続きをした AO 入試合格者に半年かけて PowerWords コースプラスを最低 1 レベル学習してもらうようにすれば、今年度クラスに 1 名程度しかいなかったレベル 2 が、次年度には AO 入試合格者から数名現れることが期待できる。これまでの AO・推薦入試合格者に対する見方を NA2 によって大きく転換できるのではないかと考えている。

しかしながら、情報教育が高校で必修化された現在でも、PC に抵抗感を持つ学生は存在する。これには何らかの対策が必要であるが、学習環境自体にストレスのあまりないことが望ましい。そこで、本学ではアルク教育社から新たにリリースされた『モバイルアカデミー』(携帯電話を利用した学習プログラム) を昨年末に導入した。すでに NA2 を利用しているゼミの学生に試験的に利用させてみたところ、「携帯の方が気軽だ」「昼食時間や寝る前のあいた時間を利用してできる」「忘れずに勉強できる」等の感想が寄せられ大変好評である。多くの高校が 3 年次の 1 月頃より授業がほとんどなくなるため、特に年明けの入学前指導にモバイルアカデミーが必要であるというのが本学で導入した大きな要因である。携帯上で学習できるモバイルアカデミーは情報

量に制限があるため、プログラム自体の完成度は NA2 に及ばないが、継続的な学習を維持させるという目的には大変効果を発揮している。内容は NA2 の「道場」と同じく英単語の意味を問う「英単語 SVL12000」、そして漢字検定の 2 級から 5 級までの「漢字検定模擬問題」の 2 種類で構成されている。(これが基本構成。他にオプションでプログラムを追加できる。

入学前指導は、経験的に言って大学教育と全く独立したものであると施行は難しく、入学後の学習をいち早く開始できて、しかもやればやるだけ入学後に有利に働くことを意識させるものであることが望ましい。入学前の高校生には、そうした「お得感」というものが感じられないと、なかなか食いついてはくれない(入学前指導なので完全な強制も難しい)。そうしたことを考えると、初年次教育も入学前教育と連動させる形で構成されている必要が生じてくる。

英語については入学後の授業と連動しているのであるが、日本語についてはそれができていない。本学ではそのことも考慮して、来年度より英語のプレースメントテストだけでなく、日本語基礎学力調査も予定している。ここで新入生はモバイルアカデミーでの漢字学習の成果が発揮されるのではないかと期待している。さらに、1 年次必修の演習では、学科単位でモバイルアカデミーを使った漢字学習が組み込まれる予定である。モバイルアカデミーはリリースされたばかりということもあり、学習履歴管理にクラス単位で利用することを視野に入れた改善の必要性を感じるが、継続的な学習を容易にし、また大量の漢字学習をも可能にしている学習プログラムとして大きな魅力と可能性を感じている。

英単語力増強対策という授業内容改善から始まった NA2 との出会いが、入学前教育への応用、そして初年次教育の改革という全く想定していなかった流れを形成することになったが、こうした流れの形成に大きな助けとなったのはアルク教育社の継続的なサポートであった。遠隔地であるにも関わらず、本学に頻繁に訪問してくださり多くのヒントをくださったことが本学での教学改革に大きな力になった。この場を借りて心よりお礼を申し上げたい。